



LIGHT HOUSE

ライトハウス

http://www.cfi.gr.jp e-mail webmaster@cfi.gr.jp

■本部事務所 〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-16-13
TEL 03-3717-2711 FAX 03-3717-2721

■チャペル 〒145-0071 東京都大田区田園調布 2-46-3

郵便振替口座 00120-6-170857 みずほ銀行 渋谷支店 普通 2382850 (ライトハウス)
C1709 『神の家族』

[今月の聖書]

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。」

(エペソ 2 : 8, 9)

「十字架によって、二つのものを一つのからだとして神と和解させ、敵意を十字架にかけて滅ぼしてしまったのである。それから彼は、こられた上で、遠く離れているあなたがたに平和を宣べ伝え、また近くにいる者たちにも平和を宣べ伝えられたのである。というのは、彼によって、わたしたち両方の者が一つの御霊の中にあって、父のみもとに近づくことができるからである。そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。このキリストにあって、建物全体が組み合わせられ、主にある聖なる宮に成長し、そしてあなたがたも、主にあって共に建てられて、霊なる神のすまいとなるのである。」 (エペソ 2 : 16-22)

「主は霊である。そして、主の霊のあるところには、自由がある。わたしたちはみな、顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。これは霊なる主の働きによるのである。」 (Ⅱコリント 3 : 17, 18)

お元気でお過ごしでしょうか？秋の雲、風を感じながら、時の過ぎ行くことの早さに驚きます。「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ。」(伝道の書 12 : 1)は青少年伝道のスローガンではなく、私に対する励ましです。「汝の生涯の最もよき部分を、汝の神に捧げよ」とは内村鑑三の言葉。まさにこの9月、今の時を生かして用いなければと思う昨今です。今月は「神の家族」と題して、伝道者パウロの晩年の獄中書簡エペソの手紙から、キリストにある世界観、福音宣教のビジョンを学びたいと思います。選民イスラエルとすべての異邦人は神の前には区別も差別もない「神の家族」である。さてそれは、「人類みな兄弟」と言っているのでしょうか？聖書は「キリストにあって一つ」と語っているのですが、すべての人が横に結ばれるためには、神と人とがキリストに深く根ざして縦の交わりをしっかりと確立しなければならないと教えています。

4月4日に92歳で天に召された浅井あい姉妹は、十数年前に、自分の人生に「神様がなされたこと」という小冊子を発行されました。ニュースレターに先月に続いて二回目の抜粋を掲載しました。東京空襲から始まる体験記は結核病棟での出会い、戦後の求道の姿をよく伝えてくれます。山根牧師との会話の中で、信仰が深められ、より高い次元に導かれている様子を見ます。聖書の人類愛はしかし、神に向かい、聖別されて行く霊的成長にかかっています。それが今私たちに求められていることではないでしょうか。

*地区集会のご案内

9月12日(火) 13:00 CFI 横浜集会 (福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

9月19日(火) 13:00 CFI 千葉集会 (京葉銀行文化プラザ7F TEL 043-202-0800)

9月20日(水) 11:00 CFI 賛美の集い (田園調布チャペル)、14:00 ジョイコーラス

*9月21日(木) 11:00 バイブルアカデミー (自由が丘本部事務所、要登録、受講料1回3,000円)

*9月9日(土) 19:00 「秋のチャペルコンサート」 10日(日) 10:30 礼拝説教小田彰「唯一の希望」

(日本キリスト教団土佐教会 〒780-0863 高知市与力町 5-18 TEL 088(872)7127)

*9月11日(日) 19:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈禱会 (淀橋教会)

*10月3日(火) 13:00 CFI 鹿児島集会 (問合せ 武田朋子 08017072324)

*11月8日(水) 9日(木) CFI 沖縄集会 (問合せ 謝花奈津子 09013480872)

故 浅井 あい(神奈川県)

「神様がわたしになさったこと」(第2回)

教会なんて何も知らない私なのに

だんだん精神的に安定し病気も快方に向かいましたが、今度は鼻がつまり息が苦しくなり女子医大に入院手術と言う事になりました。

余りにも情けない患者に同室の太田リク姉妹が私に声をかけて下さいました。

「あなたは教会に行ったほうがいいわよ」と私の手をなでてくれました。

教会なんて何も知らない私なのに、その時不思議に涙があふれて止まりませんでした。

そして退院後、高田馬場の教会を教えていただいて出かけました。

山根牧師

「ごめん下さい」と言いました。私は優しいニコニコした牧師さんが「よくいらしゃいました」と言ってくれるのだとばかり思っていたのに、色が真っ黒、ギョロ目、あぐらをかいた鼻、ずんぐりむっくり、牧師さんのイメージとは全然違った方が出ていらして、グイと私を見据えました。

その瞬間私は心の中のみにくさ、考えることのあいまいさを、パッと見抜かれたと言う感じで、私は立ち竦みました。

逆風・牧師の祈り

私が教会へ行って平伏すと、いつも(そのころ教会は畳敷きで座布団が並べてありました。)隣の部屋から大きな声で「イエスキリストが癒し給う。彼のむち打たれた疵により汝の病すでに癒されたり」。山根牧師の祈りが聞こえてくるのです。

始めはわからなかったのですが、私のため全癒を熱心に祈っていて下さることがわかり、本当に感謝致しました。

御声は霊の耳で

それからもう一つ、今まで誰にも話さなかった事があります、でも事実なので書き残します。

昭和四十年、母の日の礼拝(私四十才)最後の祝祷の時です。この日、山根牧師の説教は祈りについてのお話でした。

「経済的にも非常に恵まれた婦人が淡々と祈りを捧げていました。又、年をとった貧しいおばあさん、本当に教会の中では目立たない人でした。でも天国へ行ったらびっくり、小さなおばあさんの家はすごく立派で大きく、あの婦人の家は粗末で小さな家でした。」

こんなお話でした。

説教が終わり、先生が祝祷をされていた時です。

私の捧げた祈りは、神様の前に届いていなかったのではないかと思います、私は清い正しい心で祈っていなかったと、心の中が真っ暗になったのです。

その時、目の前の人も牧師先生もすべて消えてなくなり、私の耳に何とも神々しい凜とした声で

「我が愛に居れ」。御声が聞こえたのです。

そして暖かいお湯が海綿にしみ渡る様に、体の中央から手足の先に迄広がるのです。でもこの肉体ではないのです。

山根先生がよく「この肉体は霊体の影である」と、言われましたが、ああこれが「霊の体」なんだと思いました。

そして我に返りました。余り不思議な体験なので何か人には話せず、今日になりました。

御声は霊の耳で聞いたのでしよう、この肉の耳はぜんぜん思い出せません。

御言をしたい求め

さて信仰はあってもない様なもの、恵まれてハレルヤ、ハレルヤの日もあれば、落ち込んでしまう日々のくり返し。今、此の年になって、唯主に願うことは、罪深い老人として死ぬことのない様にということです。

ちりにすぎぬ者を、尊い御宝血をもってあがない、すべてのよきものに満ちし足らわせ、はぐみ導き育て給うた主に栄光限りなくあります様に。

